

抗ミュラー管ホルモン(AMH)は採卵数を予測できるか？

1)勝 佳奈子 1)門上 大祐 1)中岡 義晴

2)森本 義晴

1)IVF なんばクリニック 2)HORAC グランフロント大阪クリニック

#### 【目的】

ART 治療では卵巣予備能から卵巣刺激に対する反応や採卵卵子数を予測し、卵巣刺激法を選択する必要がある。抗ミュラー管ホルモン(AMH)は月経周期に関係なく検査が可能で最もよく用いられる卵巣予備能の評価方法のひとつであるが、実際の採卵数と関連しているのか検討した。

#### 【方法】

2020 年 4 月から 2020 年 6 月までに調節卵巣刺激にて採卵に至った 57 症例について、血清 AMH 値を 4 群 (a:<1.5, b:1.5-2.9, c:3.0-4.9, d: $\geq$ 5.0) に分け、採卵数や胞状卵胞数(AFC)との相関を調査した。統計学的解析はピアソンの相関係数で評価した。

#### 【結果】

AMH と採卵数の相関係数は、a:0.22, b:0.20, c:0.35, d:0.68 で、AMH5.0 以上の群で中等度の正の相関関係を認めたものの、その他の群では AMH と採卵数との間に強い相関は認めなかった。また、卵巣刺激前周期の AFC と AMH の相関係数は、a:0.10, b:0.36, c:0.18, d:0.68、AFC と採卵数の相関係数は、a:0.44, b:0.55, c:0.24, d:0.79 であり、c 群以外で前周期の AFC と採卵数に中等度の正の相関関係を認めた。

#### 【結論】

AMH 単独では採卵数を予測できるとは限らず、卵巣刺激法やゴナドトロピン投与量の決定をする際には複数のバイオマーカーを参考にすることが重要である。